

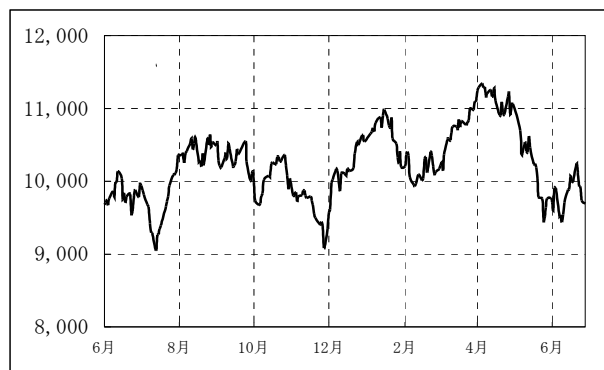
平成22年6月末 変額保険（特別勘定）の現況

当月の運用環境

【国内株式】

9,700円台の水準で始まった日経平均株価は、月初、ハンガリーの財政問題が台頭し、欧州財政不安が東欧へ拡大するとの懸念から下落基調となりました。その後、中旬にかけては、国内景気の回復期待や米国株式市場の上昇を受けて、一時10,000円台を回復するなど堅調に推移しました。しかし、下旬に入ると、相次ぐ弱い米国経済指標を背景とした世界景気回復への懸念や円高の進行で、日経平均は連日下落する展開となりました。日経平均株価は結局、年初来安値を更新し、前月末比3.95%下落の9,382円で月末を迎えました。

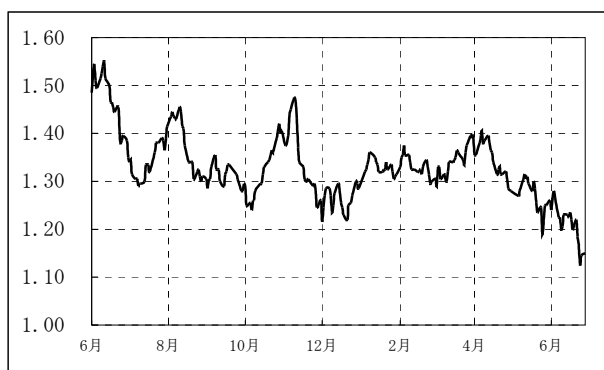
日経平均株価



【国内金利】

1.26%前後の水準で始まった10年国債利回りは、月初、菅直人新首相が誕生すると財政再建への期待感から低下基調となり、一時1.20%前後の水準をつけました。その後は、売り買いが交錯する展開となり1.20%前半でのみみ合いで推移しましたが、下旬に入ると、弱い米国経済指標が相次いで発表され、世界景気回復への懸念が一気に高まりました。世界的に株価は下落に転じ、加えて、投資家による期末の買いが入ったことも影響影響して、金利は大幅に低下しました。結局10年国債利回りは7年ぶりの水準まで低下し、1.08%近辺で月末を迎えました。

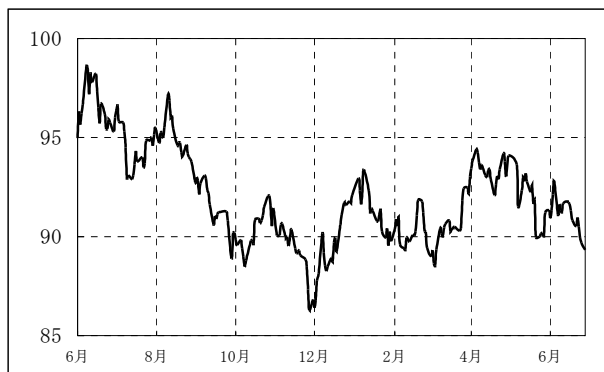
10年国債利回り



【為替】

ドル/円相場は91円台半ばから始まり、月初、円安支持とされる菅新首相が誕生すると一時92円台後半まで円安が進みました。中旬に入ると、欧州の信用不安問題に対する懸念が一時後退した一方、米国の景気下振れリスクを背景にドル売りが進行して、ユーロは対ドルで買い戻され、ドル/円相場も円高基調となりました。下旬には、世界的な株価の下落と米国長期金利低下に伴う円買いがさらに加速し、一時ドル/円は88円台半ば、ユーロ/円は107円台半ばをつけました。月末にユーロは108円台に若干戻したものの、ドル/円相場は88円台の円高水準を維持して6月の取引を終えました。

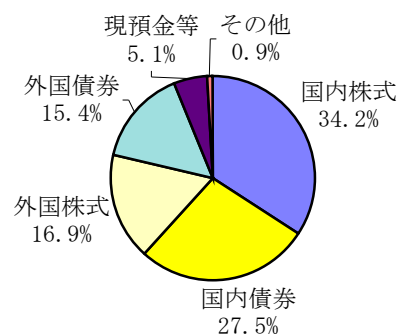
ドル円レート（対顧客電信仲値）



当月の運用経過

今月は国内債券の償還に伴い、一時的に現預金等にあった資金をUS\$建の外国債券へ投資したことから、外国債券の組み入れ比率が15.4%（前月比+2.8%）と上昇した一方、現預金等の比率は5.1%（-2.8%）へ減少しました。国内外の株式相場低迷の影響を受け、国内株式は34.2%（-0.8%）、外国株式は16.9%（-0.1%）となり、国内債券は27.5%（+0.8%）となりました。

当月末資産時価構成比



資産別運用状況

資産区分	平成22年6月末		22年度 計 画	計画差異	今後の方針
	金 額 (百万円)	構成割合			
国 内 株 式	1,632	34.2%	35.0%	-0.8%	現状維持
国 内 債 券	1,311	27.5%	25.0%	2.5%	ニュートラルまで圧縮
外 国 株 式	805	16.9%	18.0%	-1.1%	アンダーウェイト継続
外 国 債 券	735	15.4%	17.0%	-1.6%	ニュートラルまで引上
現 預 金 等	244	5.1%	5.0%	0.1%	ニュートラルまで圧縮
そ の 他	45	0.9%	-	0.9%	
合 計	4,774	100.0%	100.0%	0.0%	

* 金額は百万円未満を切り捨てております。

* オーバーウェイトとは計画の配分よりも構成割合が高い状態のことです。逆にアンダーウェイトは、計画より構成割合が低い状態を、また、ニュートラルはほぼ計画どおりの割合の場合を表します。

【国内株式】

前月に比べ、化学、情報・通信業の割合を高める一方、建設業、卸売業のウェイトを引き下げました。

【国内債券】

前月のポートフォリオを維持したことにより、国債、事業債の構成割合は、ほぼ前月と同じになりました。

国内株式保有上位5銘柄

	銘 柄	業 種	組入比率
1	NTTドコモ	情報・通信業	4.21%
2	三菱UFJフィナンシャル	銀行業	4.08%
3	日本電信電話	情報・通信業	3.59%
4	東日本旅客鉄道	陸運業	2.85%
5	ホンダ	輸送用機器	2.75%

国内株式の運用は「大和住銀日本株式ファンドV.A」を活用して行っております。

国内債券種類別構成比

	当月末	前月末
国債	52.7%	52.5%
事業債	47.3%	47.5%
合計	100.00%	100.00%

【外国株式】

イギリス、ドイツ株式の組入れ割合が上昇する一方、フランス、オーストラリアの割合が低下しました。

【外国債券】

US \$ 債への新規投資を行ったことから、US \$ 建債券の構成比が大きく上昇しました。

外国株式地域別構成比

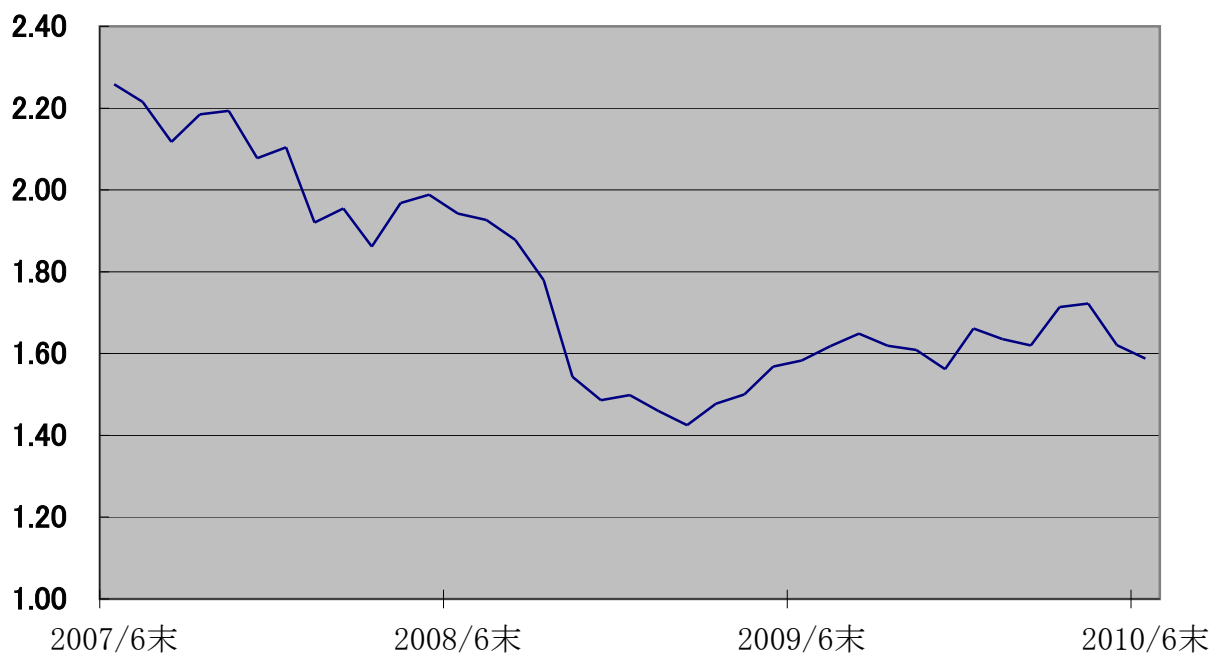
	当月末	前月末
北米	62.8%	63.4%
欧州	32.1%	31.0%
アジア・オセアニア	5.1%	5.6%
その他	—	—
合計	100.0%	100.0%

外国株式の運用は「ステート・ストリート グローバル・アソシアテッド・ファンズ」を活用して行っております。

外国債券通貨別構成比

	当月末	前月末
US\$	64.6%	55.8%
EURO	35.4%	44.2%
合計	100.00%	100.00%

変額保険インデックスの推移



当月末インデックス	インデックス伸び率				
	1ヵ月	6ヵ月	1年	2年	3年
1.5875901139	-2.03%	-4.45%	0.31%	-18.27%	-29.69%
	—	—	—	-9.59%	-11.08%

※下段の数値は、年複利利回りです。

注1) インデックスとは特別勘定の運用実績を指数化したもので、設定時を「1」として
います。なお、この運用実績は保険料から死亡保障等に充てられる部分を控除した
ものの伸び率です。

注2) 上記数値は、特別勘定の過去の運用実績であり、将来の運用成果を保証するもの
ではありません。

※お詫びと訂正

「平成22年3月分の変額保険（特別勘定）の現況」の本文中「当月の運用経過」において以下の誤りがございました。深くお詫びして訂正させていただきます。なお、ホームページに掲載中である同レポートにつきましては、訂正させていただきます。

外国債券構成比及び対前月比

(正) 12.5%(-0.3%) (誤) 12.8%(+0.3%)

あわせて、過去分(平成21年10月、11月、及び平成22年1月から5月分)の当レポートの当月のインデックス伸び率変化に関する文章部分が更新されておりました。深くお詫びして訂正させていただきます。上記同様、ホームページに掲載中である同レポートにつきましては、訂正させていただきます。